

文化・教育委員会 委員名簿

資料 1

(50音順、敬称略)

委員長	青柳 正規	東京大学名誉教授、多摩美術大学理事長 奈良県立橿原考古学研究所所長
委員	秋元 雄史	東京藝術大学大学美術館館長、練馬区立美術館館長
	浅葉 克己	アートディレクター、桑沢デザイン研究所所長
	池坊 専好	華道家元池坊次期家元
	市川 海老蔵	歌舞伎俳優
	今中 博之	社会福祉法人素王会理事長、 アトリエインカーブクリエイティブディレクター
	今村 久美	認定NPO法人カタリバ代表理事
	EXILE HIRO	アーティスト、プロデューサー
	小山 久美	昭和音楽大学短期大学部教授
	織作 峰子	大阪芸術大学教授
	桂 文枝	落語家
	川越 豊彦	全日本中学校長会会長
	喜名 朝博	全国連合小学校長会会長
	絹谷 幸二	東京芸術大学名誉教授、文化功労者
	コシノジュンコ	デザイナー
	真田 久	筑波大学体育系教授
	SHELLY	タレント
	篠田 信子	富良野メセナ協会代表、喫茶・ギャラリーあかなら代表、 C-プランニング・フラノ代表
	杉野 学	全国特別支援学校長会顧問、東京家政学院大学教授
	銭谷 眞美	東京国立博物館長
	セーラ・マリ・カミングス	株式会社文化事業部代表取締役、 NPO法人桶仕込み保存会代表理事、利酒師
	千 宗室	茶道裏千家家元
	田中 稔三	キヤノン株式会社代表取締役副社長
	野村 萬斎	狂言師
	深澤 晶久	実践女子大学文学部国文学科 オリンピック・パラリンピック連携事業推進室教授
	宮田 慶子	新国立劇場演劇研修所長
	村田 吉弘	特定非営利活動法人日本料理アカデミー理事長、 菊乃井主人
	山崎 貴	映画監督
	吉本 光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事



資料 2

東京2020 NIPPONフェスティバルの活動報告

2019年12月16日

東京2020 NIPPONフェスティバルとは

「文化の祭典」としてのフェスティバル

東京2020 NIPPONフェスティバル (2020年3月下旬～9月)

聖火リレーが始まり、世界からの注目が東京・日本へ大きく集まるこの時期に、国・自治体・文化団体等と連携し日本の文化・芸術の力を国内外に発信する文化フェスティバルを全国で展開。

目的

- ▶ 日本が誇る文化・芸術を、国内外に強く発信
- ▶ 文化・芸術を通じた共生社会の実現
- ▶ 聖火リレーと共に大会への参加機会を全国で創出

事業体系

主催

組織委員会が行う
4つの文化プログラム

+

共催

自治体等が行う特別な
文化プログラム

東京2020 NIPPONフェスティバル 活動報告①

日時/案件	概要	
<p>4月4日 制作記者会見</p>	<p>キャッチフレーズ「Blooming of Culture 文化は、出会いから花開く。」・組織委員会主催事業の企画概要・コンセプト映像について公表しました。</p>	
<p>4月23日・24日 東北復興 モッコ人形ワーク シヨップ</p>	<p>福島県南相馬市及び宮城県岩沼市にて、モッコデザインアイデア制作やデザイン鑑賞、物語の読み聞かせを行いました。</p>	
<p>5月29日 東北復興 モッコお披露目</p>	<p>「しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ」企画概要と巨大人形モッコのデザインを発表しました。</p>	

東京2020 NIPPONフェスティバル 活動報告②

日時/案件	概要	
<p>6月1日・2日 東北復興 モッコ模型 一般公開</p>	<p>東北絆まつり2019福島メイン会場にて1/10スケールのモッコ模型展示と「しあわせはこぶ旅 モッコが東北からT O K Y Oへ」パネル展を開催しました。</p>	
<p>7月4日 共催プログラム 第1弾公表</p>	<p>「東京2020オリンピック・パラリンピック能楽祭」を含む5つの文化プログラムを共催プログラムとして公表しました。</p>	 <p>7/30に行われた能楽祭記者会見の様子</p>
<p>8月3日・4日 東北復興 モッコ製作現場 一般公開</p>	<p>モッコを制作している長野県高森町の高森町アグリ交流センターにて、モッコの制作の様子を一般公開しました。</p>	

東京2020 NIPPONフェスティバル 活動報告③

日時/案件	概要	
<p>8月28日 テーマ共生社会の実現 に向けて「ONE-Our New Episode-」 概要発表</p>	<p>「共生社会の実現に向けて」の事業タイトル「ONE-Our New Episode-」・コンセプト、企画概要を、クリエイティブディレクターの小橋賢児氏と、プログラム参画メンバーとともに発表しました。</p>	
<p>10月6日 「ONE-Our New Episode- presented by Japan Airlines in KANAGAWA 2019」 を実施</p>	<p>「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けた取り組みを進める神奈川県と共同し、「ONE-Our New Episode-」のイベントを実施しました。</p>	
<p>10月15日 共催プログラム 第2弾公表</p>	<p>「2020国際ナショナル小倉百人一首かるたフェスティバル」を含む8つの文化プログラムを共催プログラムとして公表しました。</p>	 <p>11/10に行われたかるたフェスティバル記者会見の様子</p>

東京2020 NIPPONフェスティバル 活動報告④

日時/案件	概要	
<p>12月10日 「参加と交流」 日程、会場等 プレスリリース</p>	<p>2020年7月18日、19日の2日間、新宿御苑で右記事業コンセプトに基づき、総合演出に演出家の菅野こうめい氏を迎えて実施することを公表しました。</p>	<p>【事業コンセプト】</p> <p>わ</p> <p>話して 輪になり 環をつくり 和を生む おまつり</p> <p>日本文化の体験を通して交流し、 友情が生まれる場をつくる</p>



資料 5

東京2020教育プログラム「ようい、ドン！」の 進捗報告

2019年12月16日

■ 本日の議題

- 1 「よいい、ドン! スクール」 状況報告
- 2 オリンピック・パラリンピック教材
- 3 2019年度の主な取組
- 4 大会時の主な取組
- 5 東京2020教育プログラム特設サイト「Tokyo 2020 for KIDS」等について
- 6 パートナーとの連携・関係機関による取組例
- 7 (参考) 大学連携の取組について

1 ようい、ドン！スクール：認証校数

○ 2019年12月1日時点で**18,219校**に拡大



都道府県	学校数
北海道	804
青森県	245
岩手県	283
宮城県	358
秋田県	189
山形県	186
福島県	461
茨城県	541
栃木県	439
群馬県	280
埼玉県	1,459
千葉県	1,374

都道府県	学校数
東京都	2,422
神奈川県	1,457
新潟県	788
富山県	206
石川県	168
福井県	149
山梨県	89
長野県	336
岐阜県	287
静岡県	436
愛知県	737
三重県	290

都道府県	学校数
滋賀県	184
京都府	104
大阪府	101
兵庫県	174
奈良県	205
和歌山県	183
鳥取県	51
島根県	47
岡山県	270
広島県	237
山口県	447
徳島県	68

都道府県	学校数
香川県	134
愛媛県	242
高知県	159
福岡県	423
佐賀県	120
長崎県	224
熊本県	199
大分県	162
宮崎県	168
鹿児島県	234
沖縄県	79
海外	20

1 ようい、ドン！スクール：取組事例



幼稚園（長野県）
世界の国々への興味関心



小学校（浜松市）
アスリートとの交流



小学校（千葉市）
ゴールボール体験



特別支援学校（熊本県）
ボッチャ体験



高等専修学校（東京都）
インターナショナルスクールとの美術交流



高等学校（山梨県）
海外選手の学校訪問

2 オリンピック・パラリンピック教材：教材等の開発

○ 学校におけるオリンピック・パラリンピック教育に活用いただけるよう、関係団体と連携の上、教材及び指導案を開発

○ 以下の教材・指導案を開発し、活用促進を図っているところ ※ウェブ配信

(教材)

- ・ IOC公認教材「OVEP (Olympic Values Education Programme)」
- ・ IPC公認教材「I'mPOSSIBLE」
- ・ 東京都教育委員会作成教材「オリンピック・パラリンピック学習読本」

(指導案の一例) ※国立大学法人筑波大学監修 ※2019年度に追加した例

- ・ 東京1964年大会のレガシー、環境に配慮した東京2020大会、フェアプレー

(その他の教材等の一例) ※2019年度に追加した例

- ・ スポーツピクトグラム関連教材等 …スライド資料、かるた、カード
- ・ 東京2020聖火リレー関連教材等 …スライド資料、クイズ、ぬりえ
- ・ オリンピック・パラリンピック教育ビデオ



○ 今後は、観戦に向けて活用できる指導案及びワークシート等を作成・配布予定

3 2019年度の主な取組



テストイベント (WAVE 1)

テストイベント (WAVE 2)

いよいよ1年前！
7/24 オリンピック1年前
8/25 パラリンピック1年前

オリンピック聖火があなたの街にも！
3/12 採火式@ギリシャ
3/26 オリンピック聖火リレー国内スタート
@福島県

聖火リレー
関連教材
の配布

みんなの
スポーツ
フェスティバル
(春)

【小・中】
小中学生
ポスター募集

みんなの
スポーツ
フェスティバル
(秋)

観戦にむけた
事前学習教材
の配布

【高校】
東京2020
高校生英語スピーチコンテスト



ブルー：プロジェクト
ピンク：教材

3-1 東京2020高校生英語スピーチコンテスト

○ 概要

若者世代における「平和の祭典」としてのオリンピックの価値の普及促進のため、東京2020教育プログラムの一環として英語スピーチコンテストを実施

○ 対象・テーマ等

(個人賞)

対象 : 高等学校等に在籍している生徒

募集内容等 : 「平和な世界に向けてスポーツの果たす役割」を題材とした、3～5分間のスピーチを募集

(学校賞)

対象 : 東京2020教育プログラム認証校である高等学校等

募集内容等 : 本テーマに関する学校での優れた取組事例を募集

○ 実施体制

(主催) 東京2020 (共催) イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン (後援) 文部科学省



公開授業の様子
(東京都立白鷗高等学校)

3-1 東京2020高校生英語スピーチコンテスト

○ 審査員 ※敬称略

井本 直歩子	オリンピック（アトランタ 1996 大会/水泳）、 国連児童基金 ギリシャ難民移民対策支援事務所 教育専門官
コンスタンティノス・ フィリス	国際オリンピック休戦財団センター長、パンテオン大学国際関係研究所所長
真田 久	筑波大学体育系教授、東京2020文化・教育委員会委員
富高 雅代	文部科学省教科調査官
サンチョリ・リー	イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社 代表取締役社長
布村 幸彦 *審査員長	(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長

○ スケジュール

2019年4月24日（水）	募集要項発表、公開授業実施
2019年10月23日（水）	応募締切
2019年10～11月	一次審査（個人賞）、最終審査（学校賞）
2019年12月22日（日）	公開審査会（個人賞） 兼 表彰式（個人賞及び学校賞）

3-1 東京2020高校生英語スピーチコンテスト

○ 個人賞部門の審査状況

(一次審査結果)

- ・ 全国から168名の応募あり
- ・ 事務局の審査により、10名を最終審査対象者として選出

(最終審査及び表彰について)

- ・ 2019年12月の公開審査会（兼表彰式）により、受賞者4名を決定・表彰予定
- ・ 最優秀賞受賞者には、休戦ムラール除幕式（2020年7月20日、選手村）でのスピーチの機会等を提供
- ・ 最終審査対象10名全員に、表彰状及び東京2020公式グッズを贈呈

○ 学校賞部門の審査状況

(最終審査結果)

- ・ 審査員の審査により、埼玉県立草加南高等学校を受賞校として決定

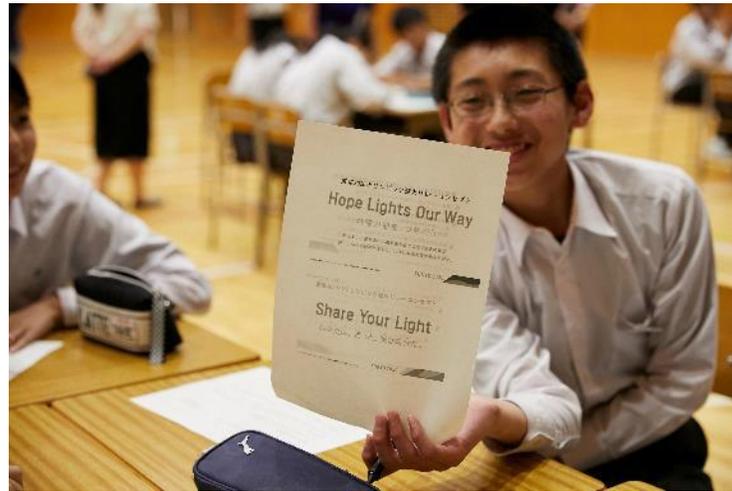
(表彰)

- ・ 個人賞と同時に表彰式を実施。表彰状の贈呈と、東京2020マスコット等による学校訪問を実施予定

3-2 東京2020聖火リレー×教育プログラム

○ 概要

- ・ 聖火リレーは全国の児童・生徒が東京2020大会に直接参加できる貴重な機会
- ・ 東京2020教育プログラムでは、子供たちの聖火リレーに対する機運の最大化を目指し、全国の学校に対し、聖火リレーの意義・目的の理解、参加促進に資する取組を展開する



3-2 東京2020聖火リレー×教育プログラム

○ 東京2020教育プログラムにおける取組

① 聖火リレー関連教材等を配布

指導案、授業用スライド資料、クイズ、マスコット塗り絵等のデータを無償配布。

② 学校から取組レポートを収集・ウェブサイトへの掲載

聖火リレー教育への取組内容レポートを収集し、一部を教育プログラムHPで紹介。
レポート提出校に、アンバサダーのメッセージ入り感謝状を贈呈。

③ 東京2020聖火リレー公式アンバサダー学校訪問イベント

アンバサダーのご協力により、聖火リレーに関する交流イベントを学校で実施。
2019年6月宮城県石巻市の中学校、11月千葉県東金市の特別支援学校で実施済み。

※上記のほか、沿道での応援等における児童・生徒の参加体験を促進できるよう検討

※東京2020聖火リレー公式アンバサダー：

野村忠宏さん・田口亜希さん・石原さとみさん・サンドウィッチマンさん



3-3 東京2020みんなのスポーツフェスティバル



© Tokyo 2020

○ 概要

- ・ 運動会等で行われるオリンピック・パラリンピックに関連したプログラムを募集し、優れたものを表彰
- ・ 2019年春と秋の2回に分けて実施

○ 目的

- ・ スポーツへの関わり方（する・観る・支える）やオリンピック・パラリンピックの価値・意義を学ぶ機会の提供
- ・ 運動会等を通じ、東京2020大会への参画意識を高め、大会の機運醸成を図ること

○ 実施体制

主催：東京2020 後援：スポーツ庁、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本スポーツ協会
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会



3-3 東京2020みんなのスポーツフェスティバル

○ 春の参加状況

募集期間：2019年5月7日（火）～7月31日（水） 参加校数：80校

表彰式（学校訪問イベント）：10月28日（月）山梨県の小学校で実施済み

○ 秋の参加状況

募集期間：2019年9月2日（月）～12月20日（金）

表彰式（学校訪問イベント）：2020年2月または3月 実施予定



3-4 東京2020大会に向けたポスター募集企画

○ 概要

- ・ 全国の小・中学生等から、東京2020大会に向けたポスターを募集
- ・ 2015年度から実施し、今年が5回目。
(2018年度までの応募作品数：約80,000点)

○ 目的

- ・ 東京2020大会に向けて、学校や子どもたちの大会への関心を高め、大会の機運醸成を図ること

○ 2019年度 作品テーマ

「世界の選手を応援しよう」

○ スケジュール

募集期間：2019年8月19日（月）～10月18日（金）

優秀作品の選出：2019年12月～2020年2月（予定）

表彰式：2020年3月上旬（予定）

※2019年10月にインターナショナルスクール（東京都）で公開授業を実施



3-5 東京2020算数ドリル

○ 目的

- ・ 子供たちに楽しく算数を学習しながら、競技についても自然に学んでもらうこと

○ 概要

- ・ 東京2020大会の全55競技を取り入れた問題で構成された小学6年生向けの算数ドリルを作成・配布
- ・ 2018年度は、渋谷区内の全公立小学校18校約1,000人に配布。
- ・ 2019年度は、都内全公立小学校1,273校の約10万人に配布。
- ・ 入手を希望する自治体には、データを無償提供。

○ 実施体制

「東京2020算数ドリル実行委員会」

(トヨタ自動車、キヤノン株式会社、JXTGエネルギー株式会社、株式会社NTTドコモ、富士通株式会社、株式会社 明治、凸版印刷株式会社、東京2020組織委員会)



4-1 大会時の主な取組 —学校連携観戦チケット（検討状況）—

○ 目的

オリンピック・パラリンピックの競技観戦を通じ、次世代を担う子供たちに、**一生の財産として心に残るような機会を提供**すること

○ 概要

- ・東京都・関係自治体（道県）・東日本大震災被災3県の小・中・高等学校等に在籍する児童・生徒を中心に、特別価格の企画チケットを販売するもの
- ・オリンピック・パラリンピック合わせて100万人以上の規模を想定

○ 対象者

- ・東京都・関係自治体（道県）・東日本大震災被災3県に所在する小・中・高等学校等に在籍する児童・生徒
- ・その他全国の小・中・高等学校等に在籍する児童・生徒

○ 配券数（予定）

オリンピック・パラリンピック合計で130万枚以上



4-2 大会時の主な取組 ー子供の大会運営等への参加（検討状況）ー

○ 東京2020みんなのエスコートキッズプロジェクト

- ・ 未来を担う子供たちが、東京2020を契機にスポーツへの興味関心を持つきっかけとなるよう、また、すでに競技に取り組んでいる子供たちの競技への意欲をより一層引き出し、オリンピック・パラリンピックの舞台で得た経験をレガシーにつなげることを目的として実施。
- ・ 対象となる活動内容：選手入場時のエスコートや国旗を持つための誘導、いわゆるエスコートキッズやフラッグベアラーなど
- ・ 対象競技： サッカー、ラグビー、テニス、トライアスロン、ゴールボールなど、オリンピック・パラリンピック合わせて10競技程度
- ・ 対象者・規模感： 基本的には小学生を中心に、活動内容によっては高校生までの計2,500人～3,000人程度

○ このほか、競技の支援、スポーツプレゼンテーションにおけるパフォーマンス、選手村における国旗の掲揚等についても実施に向け、詳細を検討中

4-3 大会時の主な取組 – その他の取組（検討状況） –

○ 学校におけるパブリックビューイング（PV）

- ・ PVは、**競技会場以外で競技を観戦し、大会の臨場感や会場との一体感を味わう**ことが可能
- ・ 東京2020大会では、学校においてもパブリックビューイングが実施できるよう、関係団体と協議中

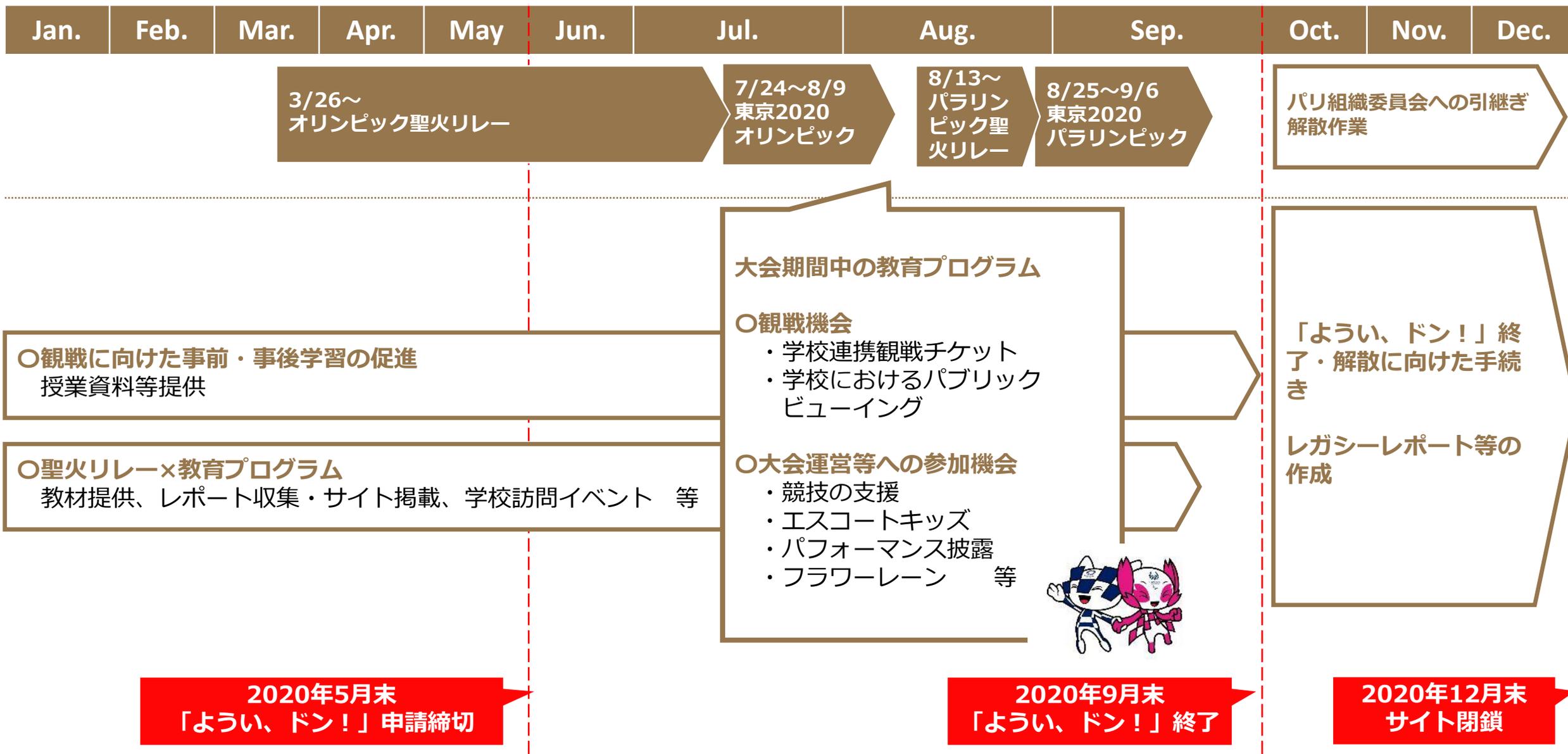
○ フラワーレーンプロジェクト

- ・ 東京2020大会の**全競技会場入口をアサガオ等の花の鉢植えで彩り、世界中の観客をもてなす**プロジェクト
- ・ 使用する鉢植えは、子供たちが育て、応援や歓迎のメッセージタグを添えたもの
- ・ 2019年度は、以下の2競技でテスト実施
ビーチバレーボール（東京都立の特別支援学校が参加）、セーリング（神奈川県藤沢市立の小学校が参加）
- ・ 2020年初旬より、大会本番時の約40,000鉢を育てる参加校を募集開始予定



東京2020教育プログラム「ようい、ドン！」概要（2020年）

★暫定



5 東京2020教育プログラム特設サイト等について

○ 特設サイト「TOKYO 2020 for KIDS」（日・英）

- ・主に学校・教育委員会向けの情報発信の場として以下のコンテンツを配信
 - 教育プログラムや東京2020に関する最新ニュース
 - オリンピック・パラリンピック、東京2020大会に係る基礎知識
 - オリンピック・パラリンピック関連教材等
 - オリンピック・パラリンピック教育の取組事例
 - 学校が参加できるイベント・プログラムの紹介 等
- ・2019年4月にリニューアルし、2019年度の閲覧者数は前年度の約1.7倍、教材等の総ダウンロード数も前年度の約3.3倍を達成（前年度月平均）

○ 認証校向けメールマガジン「ようい、ドン！通信」

- ・「ようい、ドン！スクール」として認証された学校向けの情報発信ツールとして2か月に1回程度配信
- ・東京2020に関する最新ニュースのほか、教材追加や関係団体による取組の紹介記事を配信
- ・東京2020マスコットの各種ポーズのイラストデータも配布中



6 パートナーとの連携・関係機関による取組例

○ 英語教員派遣事業

(イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社)

- ・ EF社のネイティブ講師を全国の小中高校に派遣し、オリンピック・パラリンピックについて英語で学ぶ授業を原則無償で実施。

2019年度は新たに「オリンピック休戦」をテーマとした授業を追加。



○ はがきでコミュニケーション全国発表大会（日本郵便株式会社）

- ・ はがきによるコミュニケーションの活性化のため、小学生からはがきを募集・表彰する事業に、昨年度より東京2020賞を設定し、オリンピック・パラリンピックの価値を学ぶ機会を提供予定



6 パートナーとの連携・関係機関による取組例

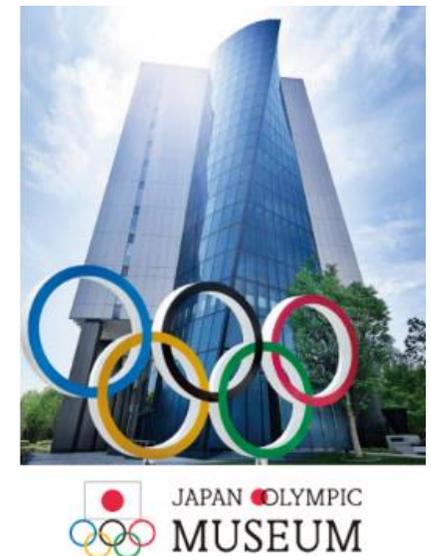
OI'mPOSSIBLE (アイムポッシブル) アワード (アギトス財団)

- ・国際パラリンピック委員会 (IPC) の開発を担うアギトス財団が主催する賞。IPC公認教材『I'mPOSSIBLE』を使用してパラリンピック教育を推進している学校が対象。教材を活用し、インクルーシブな社会の実現に向けて特に優れた活動を行った学校を東京2020パラリンピック競技大会閉会式にて表彰。日本でも募集中。



○ 日本オリンピックミュージアム グランドオープン ((公財) 日本オリンピック委員会)

- ・ (公財) 日本オリンピック委員会は、2019年9月14日に日本オリンピックミュージアムをオープンしました。日本オリンピックミュージアムでは、オリンピック・ムーブメントの発信拠点として様々な活動を展開しています。実物資料及び映像資料等の展示を通して、オリンピックの歴史や意義を学び、知識を深めることができます。



7 (参考) 大学連携の取組について

大学連携'19 イベント「Tokyo 2020 学園祭 next」

今年は、「Tokyo 2020学園祭」（2017年、2018年開催）を、全国6つの連携大学で行われた学園祭内にて実施した。

会場には、東京2020オリンピックマスコット「ミライトワ」とパラリンピックマスコット「ソメイティ」が登場し、学生とのコラボステージや、握手&記念撮影会を行った。

また、東京2020大会PRブースでは、フォトスポットの設置や動画放映・パネル展示などを行った。



【実施スケジュール】

- 10月 5日 (土) 秋田県立大学 秋田キャンパス 「松風祭」
- 10月12日 (土) 清泉女学院大学・清泉女学院短期大学 「清泉祭」
- 10月20日 (日) 鳥取看護大学・鳥取短期大学 「シグナス祭」
- 11月 9日 (土) 愛媛大学 城北キャンパス 「学生祭」
- 11月23日 (土) 和歌山大学 「和大祭」
- 11月30日 (土) 名桜大学 「名桜大学祭」

7 (参考) 大学連携の取組について

活動事例

①青山学院大学 (2019年6月23日)

「学生×アスリート×ファッション」学園祭 番外編 in 青山学院大学

渋谷・表参道という大学の立地を活かし、青学生が考える「夏の観戦スタイル」をテーマとした、ファッションショーを実施。アスリートを招いたトークショーも行われた。

②明治大学 (2019年9月6日)

「Make The Beat!」プロジェクト発表会

“スポーツの応援”になぞらえ、明治大学応援団による演舞・演奏をはじめ、同応援団のOGであるタレントの土屋 炎伽（ほのか）さんを中心に、多彩なゲストで発表会を実施。



③実践女子大学 (2019年12月21日) 【予定】

「ALL JISSEN FESTIVAL!」 ～みんなの表彰台プロジェクト～贈呈式 ほか

現在、学内にて、使用済みプラスチックの回収を実施。イベントの一部において、持続可能性部によるミニ講義、回収したプラスチックの贈呈式、などを行う。



資料 6

アクション&レガシーレポート (概要版・抜粋)

2019年12月16日

アクション&レガシーレポート

アクション&レガシープランで定めたレガシーコンセプトに基づき、各種アクションを実施。
アクションの成果やレガシーについて、大会後に「アクション&レガシーレポート」として取りまとめる。

全体構成

- ✓ 挨拶等
 - ✓ 第一章 アクション&レガシーレポートについて
 - ✓ 第二章 スポーツ・健康
 - ✓ 第三章 街づくり・持続可能性
 - ✓ 第四章 文化・教育
 - ✓ 第五章 経済・テクノロジー
 - ✓ 第六章 復興・オールジャパン・世界への発信
 - ✓ 第七章 東京2020参画プログラム
 - ✓ 第八章 東京2020 NIPPONフェスティバル
- ※参画プログラム一覧は、ホームページへの掲載をもってかえる。

第一章 はじめに

目次と主な内容

1 アクション&レガシーレポートについて

- ・東京2020大会をきっかけとして生まれた取組（アクション）やその成果を、未来につながる（レガシー）ため、2016年にアクション&レガシープランを策定
- ・アクションの成果やレガシーについて、レポートとしてとりまとめる

2 オールジャパンでの取組

- ・東京2020大会に一人でも多くの方が参加し、オールジャパンで盛り上げる体制を構築
- ・組織委員会のみならず、関係団体と連携しながら取組を推進

3 各柱を横断する視点

- ・「参画」と「レガシー」は5本の柱の共通理念
- ・東京2020大会は同一都市で2回目のオリンピック・パラリンピックを開催する初の大会であり、パラリンピックの成功を通じた共生社会の実現を目指してきた

4 今後の取組

- ・東京2020大会後も、東京都、政府、JOC、JPCをはじめとする様々なレガシーの担い手により取組が実施されることで、レガシーとして未来につながっていくことを期待
- 東京都**：大会開催の影響等を、レガシー・レポーティング・フレームワークを活用し発信
- 政府**：平成27年11月に閣議決定した「オリパラ基本方針」にレガシーの創出と発信を掲げており、ロンドン大会の取組を参考に検討を進めている

5 本レポートの構成

第四章 文化

基本的な考え方

文化はスポーツと同じく、人々に感動を与え、豊かな人間性を涵養し、想像力と感性を育むなど、人間が人間らしく生きるための糧となるものである。これは正に、オリンピック・パラリンピックの精神に通じるものであり、オリンピック憲章においても、文化の重要性について謳われている。

したがって、文化の各種の取組は、全国どこにいても、誰もがオリンピック・パラリンピックに参加することを可能にするものとし、より多くの人々をオリンピック・パラリンピックに巻き込んでいくものとする。また、全国各地でオリンピック・パラリンピックの成功に向けた機運を醸成していくことにおいて大きな役割を果たすことができるよう取り組む。

レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
日本文化の再認識と継承・発展	日本文化の価値を再認識するとともに、次世代へ継承し、発展していく取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化資源を活用した取組を通じた日本文化・地域文化への自信・誇りの醸成 ・国内外での日本文化の公演や展示会の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統文化や芸術の再認識 ・日本文化に対する自信や地域への誇りの創出
次世代育成と新たな文化芸術の創造	文化芸術の創造活動環境を整備することで、文化芸術による新たな価値を創造すべく取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・次代を担うクリエイターによる新たな芸術表現の創出 ・政府、地方自治体、企業によるアーティストや文化団体への支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の交流を通じた新たな表現や、文化の創出 ・次代を担う若手アーティストの活躍
日本文化の世界への発信と国際交流	日本が持つ伝統文化と現代文化が共存するなど、独自性と多様性を持つ日本の文化の魅力を世界に発信する取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・海外アーティストとのコラボレーションや多様な分野による共同プロジェクトの増加 ・文化芸術を通じた国際交流の機会の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術を架け橋にした国際交流事業の定着 ・多種多様な文化を海外に発信するノウハウの継承
全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化	文化事業を通じて様々な主体が連携・参加・交流できる場や機会を創出し、地域を活性化すべく取組を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体や団体における文化芸術プログラム及び参加者の増加 ・アクセシビリティや多言語対応の充実により障がい者や外国人などあらゆる人々が文化プログラムに参加できる機会が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が主体となって参加できる芸術祭の定着 ・全国各地における地域活性の更なる促進

第四章 教育

基本的な考え方

- ・教育は、豊かな人間性を涵養し、人格の完成を目指し、ひいては社会の形成者を育成していくことを目的とするものであり、スポーツもその重要な一角をなすものである。
- ・これは正に、オリンピック・パラリンピックの精神に通じるものであり、オリンピック憲章においてもその重要性が謳われている。
- ・教育の各種取組は、より多くの人々をオリンピック・パラリンピックに巻き込んでいくこと、全国各地でオリンピック・パラリンピックの成功に向けた機運を醸成していくことにおいて大きな役割を果たす。

	レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
教育	オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校「ようい、ドン！スクール」の認証 ・オリンピック・パラリンピック関連教材等の活用促進（OVEP、I'mPOSSIBLE、学習読本等） ・アスリート等による学校訪問イベントの実施（「東京2020フラッグツアー学校訪問」、「夢・未来プロジェクト」等） ・観戦機会の提供（「学校連携観戦チケット」等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国でオリンピック・パラリンピック教育が実施（認証校数、教材活用数、イベント・プログラム実施件数及び参加者数等） ・児童・生徒におけるスポーツへの興味関心の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育の実施基盤の構築
	多様性に関する理解～障がい者への理解・国際理解～	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者理解の促進（「I'mPOSSIBLE活用促進」、「スマイルプロジェクト」等） ・国際感覚の醸成（「東京2020高校生英語スピーチコンテスト」、「世界ともだちプロジェクト」等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒における共生社会での交流意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒における心のレガシーの創出（自信と勇気」「多様性の理解」「主体的・積極的な社会参画）」
	主体的・積極的な参画と大学連携	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020大会の準備・運営への参画機会の提供（「東京2020マスコット小学生投票」、「競技の支援」等） ・児童・生徒におけるボランティアマインドの醸成（「東京ユースボランティア」等） ・大学連携の枠組みを通じた取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国での大会開催機運の醸成（プログラム参加者数等） ・児童・生徒における社会参画意識の向上 	

第八章

東京2020 NIPPONフェスティバル

基本的な考え方

「東京2020 NIPPONフェスティバル」とは、2020年4月頃から9月頃までを会期として実施した東京2020大会の公式文化プログラムであり、東京・日本へ世界からの注目が集まるこの時期に、日本が誇る文化を国内外に強く発信していく。
また、大会後の共生社会の実現を目指して、多様な人々の交流を生み出すことや、文化・芸術活動を通して多くの人が東京2020大会へ参加できる機会をつくり、文化オリンピックの集大成として大会に向けた機運を最大化することを目的に実施する。

主催プログラム	テーマ	内容
キックオフ (2020年4月)	大会に向けた祝祭感	東西を代表する舞台芸術の融合（歌舞伎とオペラ）による世界初の舞台を東京2020大会で実現
オリンピック直前 (2020年7月)	参加と交流	日本文化を通じて様々な人々が交流する場・イベントを創出。 世界の心を1つにするフィナーレを実施
パラリンピック直前 (2020年8月)	共生社会の実現に向けて 「ONE -Our New Episode-」	大会移行期間に、障がいのある人やLGBTを含めた多様な人々が参画し、街中で様々なアートやパフォーマンス活動などを展開
東北復興 (2020年5月～7月)	東北復興 「しあわせはこぶ旅～モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ～」	東北各県と連携し、巨大人形「モッコ」と共に東北各地を舞台とした文化プログラムを展開、国内外へ東北の現在の姿を発信

【フェスティバルマーク】



東京2020
NIPPON
フェスティバル

【キャッチフレーズ】

Blooming of Culture

文化は、出会いから花開く。

5 ※上記は現在の案であり、内容については大会後に改めて精査する。